

杉本真維子

投稿という行為はそもそも大変なエネルギーを要するものですが、それをある一定の期間、続けるということ、相当高いモチベーションと持久力が求められます。それらを下支えしているものは、おのおののなかの詩の必然性です。この必然性が心に火を点け、無自覚にせよ、投稿者はその炎と孤独に向き合うことで、作品の原型となるものを生み出しています。でも、炎はそのままでは消えてしまうので、同時に極めて冷静なまなざしと手つきで燃料を集め、点検し、炎のなかにくべつづける、ということもしているのです。

この後者のおこないの一つが、推敲です。推敲がなければ作品に命を吹き込むことはできません。これをするることによって批評眼が鍛えられ、自作を少し離れた位置から眺め、よしあしを判断する力を養うことができるのだと思います。(ちなみに、月次投稿でたまに目にしますが、似たような作品が複数できたから全部投稿して選者に委ねる、というような他力では、なかなかよい作品は作れないと思います)

そして、これらの鍛錬の集大成にあたるものが、口語詩句賞や奨励賞応募のためにおこなう

10作の自選でしょう。自作を絞ることは容易なことではありませんが、苦しくとも手応えはあつたはずです。残念ながら受賞に至らなかったとしても、自選という作業は決して無駄にはなりません。

こうした推敲への意識が、優れた作品からうかがえるものだと思います。そういう方を推薦しました。おひとりにつき一篇ずつ、その方の特性が際立っていると見える作品を挙げます。

豊富瑞歩

梨を剥く／あなたはいつも騙されて／騙されるとき目を閉じている

渡辺あみ

公式は知っているけど解けなくて／ファンタの泡がさんさん昇る

藤色

蠅が首元を通り過ぎた／光はあっち

まちりこ

ブランコを立ち漕ぎしたい／寂しさは揺らせば／消える
／そんな気がして

翠

命がないから／あんなに／からみあう ケーブル

さくらママ♪

貴方が着てきた幾何学模様の／ニットのの中に／／私を好
きという只一点を／探している

高橋ちひろ

霧雨と／分厚い直線の隙間から／そこだけ見える／托鉢
の僧

ヒラノユリア

痛い飛んでけと／泣いてる娘を抱きしめる／私の中に
は何もない

山本先生

迎春の／ちやちなフォークで食うパスタ

五味はこ

砂浜の／読んではならない部分を歩く

月次投稿で多くの佳作を獲得し、突出した才能をあら
わしていた、さいうさんの応募がなかったことは残念に
思いました。もちろん、投稿の目的は賞への応募だけで
はないので、これから先の詩作を心から応援したいと思
います。

受賞されたまちりこさんは、作者の自選と私が優れて
いると感じていた作品との多少の齟齬はありましたが、
長期的に投稿される方はたくさんいても、まちりこさん
のように一定のレベルを保ちつづける方はそれほど多く
ありません。並大抵のことではないと思います。そのほ
か、私が今回とくに注目した方は、豊富瑞歩さんです。

自選の10作はどれも完成度が高く、
拝啓と書いて頭をあげるとき／あなたのように動かない月
天国の心あたりを聞くように／プールの底へ触れたゆび
さき

など、漢字とひらがなの繊細な使い分けや透明感あふれ
る洗練された言葉運びにしばし陶然となりました。